

# これからのスピーキング指導

田中知聰



地域社会や国際社会において外国語で意見を伝え合う力がますます必要になる中、学習指導要領改訂、大学入試改革等を受け、高校の教育現場も大きな改革の時期を迎えています。

次期学習指導要領では、「話すこと」を「やり取り」と「発表」の2領域に分け、話す内容を事前に準備して行う「発表」だけではなく、「即興性」を意識した活動にも焦点があてられるようになりました。自然な場面や状況を設定した活動を通して、生徒が英語を使って情報や考えを伝え合う力を育成することがさらに重視されるようになります。本稿では、「話すこと」のうち、「やり取り」に焦点をあて、その活動例と評価例を紹介します。

まず、生徒に身に付けさせたい力をどれくらい設定するか決め、3年間を見通した教育課程、学年、期間の中で、何ができるようにさせたいかを考え、評価方法、授業内容、活動を決めます。

スピーキング活動に取り組むことができるようになるには、即興でやり取りを行う活動を普段の授業から取り入れておくことが必要です。

## (1) 写真を即興で描写する活動

すぐに取り入れられるのが、教科書などの写真を使って自然なやり取りをする活動です。

T: What do you see in this picture? Where is the location?

S<sub>1</sub>: It's at the beach. There are many people.

T: What are the people doing?

S<sub>2</sub>: Some people are swimming.

教師と生徒でやり取りをします。写真から情報

を読み取り、順序良く説明する力を身に付けさせることが目的です。必要な語彙を確認していくことは、後の活動の支援にもなります。

## (2) 生徒自身の経験や日常生活について問う活動

生徒に、生徒自身のことに対する目を向けさせることはとても大切です。音楽についてのテキストを扱う際に使える発問例を見てみましょう。

Q1. Do you like listening to music?

Q2. Have you ever been to a concert?

ペアで、すぐにでも行える簡単な問い合わせます。自分のよさや得意なこと、興味のあることを認識させるとともに、他者に対して興味をもたせ、互いを尊重する態度を育みます。リラックスして話すことができる雰囲気作りは、これからの授業に欠かすことができません。

## (3) 会話を続ける力をつけさせる活動

相手の発話に対する反応の仕方を練習します。  
T: Responses are also important. Let's practice together. "Wow!" "Really?" "I didn't know that." "That's wonderful." "How was it?" "Please tell me more."

このように反応の仕方を練習すると、教室の雰囲気が明るくなり、生徒の会話が弾みます。

## (4) 質問する力をつけさせる活動

話題を広げたり深めたりするための質問を生徒自身に考えさせる活動も効果的です。

T: Today's topic is music. Think about questions you want to ask about this topic.

トピックについての質問をペアで考えさせた後、全体でシェアをし、板書をしていきます。

What kind of music do you like? / Who is your favorite singer? / When do you listen to music? / Why is music important to you? など、生徒が他者に尋ねたいと思う様々な質問が出てきます。

"In our real-life communication, it is important to listen to what people say and ask questions to get more information. Try to continue talking for more than one minute." と指示をすると、1分では足りず、2分くらい会話を続けられるようになります。矢継ぎ早に質問をさせるのではなく、自然な会話の流れを意識して丁寧にやり取りをするよう導くことが大切です。

#### (5) 日常的な話題から社会問題へとつなげる活動

スピーキング活動をする場合、例えば次のような目標、評価、活動を考えることができます。

＜目標＞ Students will be able to:

1. Describe what people are doing;
  2. Tell their opinions;
  3. Give two reasons to support their opinions.
- ＜評価＞上記の目標それぞれについて、(A)十分に達成できた、(B)ほぼ達成できた、(C)伸ばす必要がある、の3段階で評価する。

Look at the picture. Describe what people are doing.

- Q. Do you think we should volunteer more?  
Why? / Why not?

海に浮かぶプラスチックごみを集めている人の写真を使用します。同じトピックでも、少し難易度を下げて、Q. Do you think volunteering is good? と尋ねたり、難易度を上げて次のような目標、評価、活動をすることができます。

＜目標＞ Students will be able to:

1. Tell their opinion, agree or disagree;
2. Give two reasons to support their opinions;
3. Add explanations to each reason.

＜評価＞同様に3段階で評価する。

Do you agree or disagree?

We should stop using plastic products in our daily lives.

生徒に最終的にこのような活動ができるようにするために教師ができる支援を見ていきましょう。次のように教師が問い合わせ、その問い合わせについて教師と生徒で会話をしたり、1~2分間ペアでやり取りをさせたりしながら、思考力、判断力、表現力を育成する授業を開発します。

T: Look at this article. It says we might have eaten plastics for our breakfast. Can you believe this?

英字新聞の記事を見て環境問題に着目させます。

T: Do you often drink from plastic bottles?

日常や学校生活と結び付け、生徒同士でやり取りさせます。

T: What kind of plastic products do we use in our daily lives? Name as many as possible.

身の周りにあふれるプラスチック製品を挙げさせ、社会の状況に目を向けさせます。

T: Look at those pictures. What do you see?

T: What can people do to protect the environment?

写真、地図、グラフなどを使い、社会問題について考えさせます。

そして最後に、自分の考えを伝え合う活動に戻ってくると、生徒は生き生きと自分の考えを表現し始めます。異なる視点から思考させ、様々な意見や具体例を参考に自分で判断させることで、生徒は自分が伝えたいメッセージを持つことができるからです。

生徒には、様々なスピーキング活動での体験を通して、英語でメッセージを表現することを楽しみ、さらに表現を広げるために学び、社会で必要とされるコミュニケーション能力を身に付けていってほしいと思います。

(たなか ちさと・山梨県立甲府城西高等学校教諭)